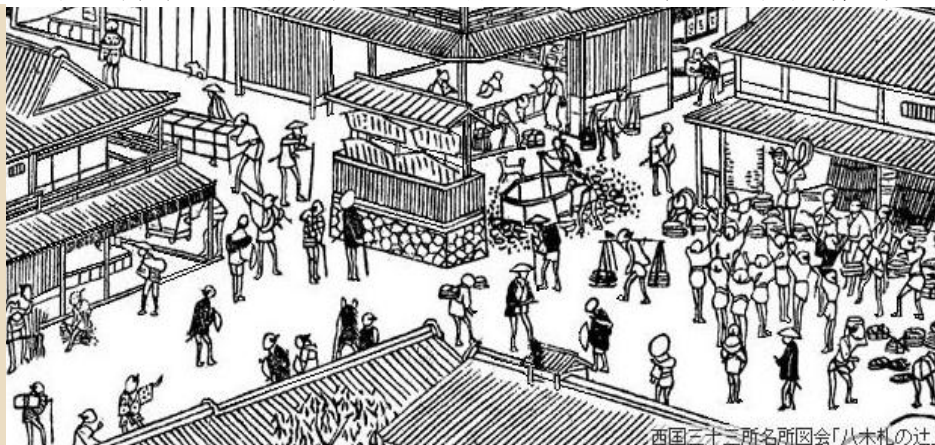


大和八木 まちづくり 新聞

No.03
2011年
1月号

特定非営利活動法人八木まちづくりネットワーク



西国三十三所名所図会「八木札の辻」

NEWS

■ 11/28 「幕末の大和」講演会



長らく「鎖国」を続けてきた幕府は、1854年に「開国」に踏みきり、1858年には通商条約を締結。国内では、これ以降、尊王攘夷運動と公武合体運動が展開、維新変革への道が切り開かれていくことになる。

こうした激動の幕末期に、大和の人々はどのような問題に直面するようになり、どのような思いを抱き、どのような活動を展開するようになっていったのかという問題について、八木の谷三山(幕末大和随一の学者)の言動にも触れながら、お話しいただきました。(講師:谷山正道先生・天理大学)

※次号以降に詳細を掲載予定。

■ 11/19-20 平城遷都1300年祭にちなんだ「はりえ作品展」



橿原文化会館2F展示室で大極殿・朱雀門・遣唐使・鹿等の貼り絵の展示



会が行われました。合わせて大和野菜の即売会と古代衣装撮影会も開催し楽しい古代絵巻に参加した気分でした。

■ 11/21「歴史的な路地のまちづくり」講演会

伝統的な祭り・愛宕祭のある八木のまちは歴史的な町並みと路地のまちともいえます。今では、全世界、全国と同様の町が、まちづくりに取り組み、まちを少しずつ変えながら、火事や地震に強い町に変えていく取り組みをしています。このようなまちづくりを進める地域の人々を支え、応援してきたまちづくりのプロ、神戸山手大学・小林郁雄先生に八木の町の特性を活かしながら、火事や災害に耐えうるまちづくりを進めるヒントを、話しいただきました。

■ 11/5-7全国町並みゼミ盛岡大会

「暮らしのいきづく町並み」をテーマに岩手県で開催。NPOからも参加しました。中心会場となる鉾屋町周辺は城下町の入口に位置し、北上川の舟運との結節点。また、盛岡周辺は近代化遺産などの文化財



が点在する美しい町で、八木との比較を交え、他地区との交流ができました。

■ 10/16横大路ウォークⅡ開催



遷都1300年祭の支援事業のひとつとしての開催。近鉄上ノ太子駅から長尾神社までの11kmのウォークで、好天に恵まれ、のんびりと歩くことができました。

太子町は当日、秋祭りで最近は見かけなくなった「太神楽」が家々を回り、なつかしい鐘と太鼓の音が町中に響いていました。

途中、伊勢参りの旅人になった気分かどやで、春日の旅籠「角屋」跡、大道にある山本家(登録文化財)や竹内側の旅籠「柳屋」を見て、竹内集落の綿弓塚で昼食をとり、午後は長尾神社まで歩き、近鉄磐城駅でウォークを完了しました。



『糸ぐるまは回る』

八木の昔がっばいの本と著者細山さんの紹介

糸

ぐるまは回る』言う本をご存知ですか。この本は八木の町で静かなブームを起こしている本です。大正8(1919)年頃から昭和8(1933)年までの作者が5歳から19歳までを過ごした八木の町の様子を描いた、すぐれた随筆集です。当時の日本は大正12年の関東大震災、そして昭和6年におこった満州事変から国際連盟脱退へと進展し軍国主義的体制へ導かれていく時代でした。

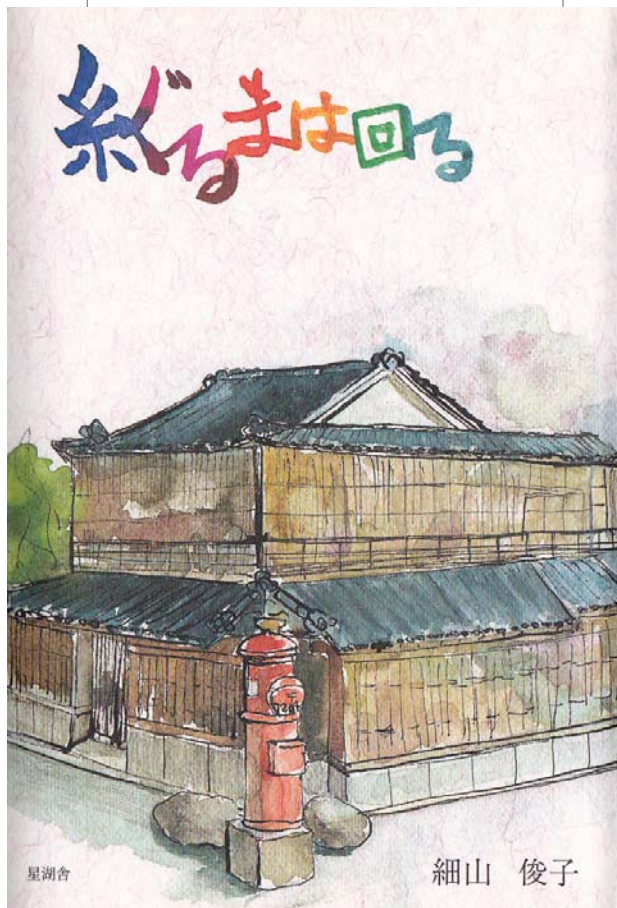
当時とほとんど変わっていない町の様子と作者の記憶力の確かさから、この作者に一度お会いしたいと思っておりまして、出版社の協力を得て実現する事になりました。以下、本の紹介と探訪記です。

日差しがきつい夏の午後、私達NPOのメンバー4人は、大阪に近い閑静な住宅地に向いました。細山俊子さん(旧姓 藤野俊子 96歳 大正3年生まれ)のお住まいはその一角の、きちんと手入れされた芝生の緑もまぶしいお宅に、お嬢様のご家族とお住まいでした。元気な姿で玄関までお出迎え頂き、レースのカーテンの窓際の食卓に通されました。

細

山さんのお宅にお伺いして大変お元気なことと、その記憶の正確さに一同驚かされながら、90年前の八木の様子や楽しい話を聞かしていただきました。なかでも子供の頃の思い出のなかで、楽しかったのはや

はり「愛宕祭」が一番だった様で、町内の「夜店」・「立山」を見て回るにはとても3日間では足りなかったぐらいで(十数か所の立山)、私とこが一番、いやあっちが良かったと言いながら見て回る、そして「立山」をつくる大人達は、「あそこには絶対負けられん」と連日、夜遅くまで一生懸命に作る、90数年前にも町が「愛宕祭」で大変、活気づい



星湖舎

細山 俊子

っていたようです。

約90数年前の八木町の暮らしぶりや出来事をじかに細山さんから聞いていて、自分が生まれた土地、八木への単なる郷愁と愛着だけではなく、本当に八木が大好きでこれから先も八木が受け継いできた歴史や文化を生かしてもらいたいとの願いを込めて本を出版されたように思いました。また出版されるにあたって細山さんは八木へ来ら



れずに膨大な量の自分の記憶をよりわけながら本にまとめる作業をされたことと、その記憶の正確さに改めて敬意をはらうと共に、この本は八木を離れていつのまにか遠い所で暮らされている人にとっては自分の「原点」を取り戻してくれる本だと思います。細山さんとの会話は優しい言葉づかいのせいもあってか、何とも楽しく、みんな、いっきに子供の頃に引き戻された感じで懐かしかったり、同じような経験

でうなずきあったりしていると、今も八木には、細山さんの頃とあまり変わらない四季折々の暮らしや行事があり、日々の何でもない日常生活が代々受け継いできた八木の伝統であり文化の継承だとあらためて気付かされる訪問になりました。

長時間に亘るお話の御礼と今度は八木で細山さんとの再会をお願いしてお宅を後にしました。

「糸ぐるまは回る」の中には当時の八木に暮らす人々の日常のまなざしや八木町にお住まいの方々の生活の記憶として、また町の思い出としてだんだんと薄れていってしまう事柄とともに、これからも残しておきたい八木らしい暮らしの情景があふれています。

「ようおいで」、「まあまあ、ようきなはったなあ、暑かったやろ」と言って冷たい麦茶を御馳走になる、そんな光景を思い起こしてみてください。学校から帰って友達の家遊びに行った時、親戚のおばちゃんの家に行った時、また近所へ買い物のお手伝いをしたとき、そのお宅のお



じいさんやおばあさんが優しく笑いかけながら声をかけて迎えてくれる、少し年配の方々には、子供の頃には聞きたなれた言葉で、その何とも言えない優しい特別な言葉の響きと共に地域の中で子供を大切に、のびのびと育ててもらったと感じてられている方は少なくないと思います。

藤

野さん姉弟4人が毎日遊んだ友達の「お正さん、木綿問屋の菊ぼん、春ぼん、豆腐屋の秀ちゃん、せんべい屋の勇次さん、お医者さんのおさむさん、彦ちゃん、年下のふさちゃんとひろ君としげ君」達との「かくれんぼ・鬼ごっこ・探検ごっこ・凧あげ」や近所の合羽の干場を遊び場にして走りまわった思い出、そして春は神武さん、神社の大神楽、夏は夏休みと愛宕まつり、秋は運動会、冬はお正月と餅つき等、今もあまり変わらない季節の行事と日々の生活を過ごすなかで近所の大人の「岩さん、吉ちゃん、音やん、辰ちゃん、年寄りの吉井さん」はじめ地域の大人達が子供たちを楽しませる為に(当時の子供や私たちが子供のころはそんなこととは思ってもせずに町の中を楽しくはしりまわっていたと思う。)色々工夫してくれる様子が、思い出と共に紹介されています。

本を読まれますときっと「この場所はあることやな」、「あのおっちゃんのことやな」、「自分たちの町内ではこんな事もしてたな」と子供の時の事が鮮やかに、よみがえってくること請け合いです。私のまわりにも優しいおっちゃんやおばちゃんがいきましたが、こわいおっちゃんも(今から思えば怖いといってもおもに挨拶や受け答えなど躰で注意されたように思う)いて家に来られた時はかしこまっていた、帰っていかれるとホッとしたものでしたが、でもお正月にはかかさず「お年玉」持って来て

もらえる怖いだけの方ではありませんでした。

近頃はめったに出会うこともなくなつた「物売り」や「かどづけ」のことも書かれています。

「太鼓をたたきながらの飴売り(いつの時代もそうであるように子供はこの人達の後をついて歩き、もう帰りやーといわれて家に戻る)」、「ラオシかえー(キセルの煙管替え)」、「イワシ売り」、「近所の農家から来る野菜売り」、そして「熊野鯖売り」が来たそうです。鯖は12月になると脂がのって美味しくなる。その鯖を売りに来るのだが、鯖が小さ



かったり、身のつやがなかったりすると「また次のにするわ」といって買わない、

「そうだったか、またええの持ってきまっさ」といってひきあげて行く、そして今度はいいのを持って来て沢山買ってもら、そこには言葉のやりとりと共に商いの基本が成立していて、遠い所から売りにきているから少しぐらい気に入らなくても買ってやろうとはならないのである。

ま

た、「かどづけ(この言葉自体が通じなくなっているかも---)」と称する、おこもさん、虚無層(今の子供たちにはその恰好は想像ができないと思う)や托鉢のお坊さん、三味線を弾きながら歌う男女のこと等も

紹介されています。

「まあきれいな、とうさんやこと」、「暑いよって、ちょっとゆつくり休みなはれ」「はよ、おきなはれ」などの言葉づかい、「あるきさん」、「通」、「倉橋屋」、「町内一斉の大掃除の日」、「お駄賃」、「飛行機せんべい」、「兵隊さんはお国の宝」、「はま下駄」、「浜寺の海水浴場」、「大軌電車(近鉄)」、「飛鳥川の洪水」等など皆さんにも思い出がよみがえってくる出来事と言葉が一杯です。

私は「糸ぐるまは回る」を読んでいて、ちよつと不思議な感じがしました。

というのも目で活字を追って文章を読んでいるのですが、本に書かれている子供の頃の光景や出来事が自分の頃の記憶と重なって目の前にはっきりと蘇ってき、ページをめくるたびにそれが続き一気に読んでしまいました。

「糸ぐるまは回る」は自費出版の本ですから、一般書店には並んでいません。下記の出版社に電話で申し込まれるか、近くの書店で取り寄せてください。

また八木町にお住まいの方々の記憶の中にも語り継いでおきたい町の出



来事や残しておきたい町の資料をお持ちだとおもいます。お話を聞かせて頂きますようお願いいたします。

糸ぐるまは回る

著者:細山 俊子 画:川口美乃里

出版社 星湖社

電話 06-6777-3410

定価 ¥1200 + 税(送料別)

★NPO八木ネットで貸し出し中ですので、お気軽にお尋ねください。

八木のいろいろ情報

住まい・まちづくり担い手事業1

祭りともちづくり シンポジウム

2011年1月14日(金)13:00-15:00

関西大学100周年記念会館ホール

テーマ: 祭りともちづくり

予約不要、入場無料

◆講演内容

まちづくりにおける祭りの意義

平田一式飾の継承への取り組み

山間集落における祭りの継承

子どもに伝える祭りの造り物の楽しさ

◆主旨

まちづくりには祭りの仕組みに学ぶべき点がいっぱいあります。歴史ある町では人口減少や高齢化が進み、町の活性化が課題になっています。そのなかで、「祭り」に着目し、「祭り」を軸としてコミュニティの絆を強め、「祭り」の技を子どもたちに継承していこうということが各地で行われています。今回のシンポジウムでは、祭りを行う人々のつながりと次世代への継承問題を考えながら、各地の事例を知り、意見交換する予定です。



参加者間の交流会も開催予定。

◆主な出席地域と祭り

出雲平田 一式飾奥出雲大呂愛宕祭

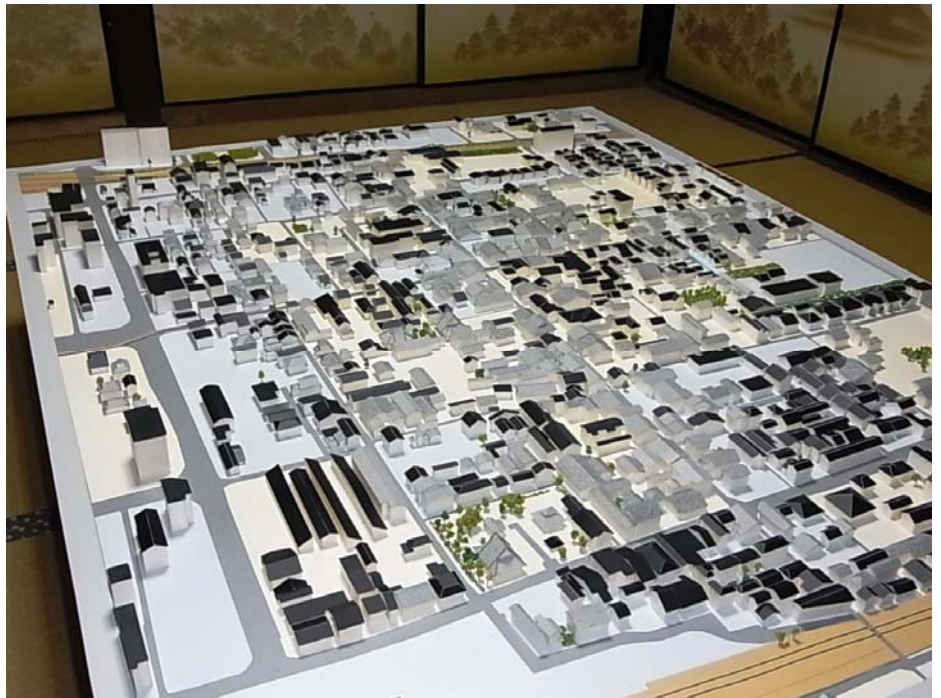
八尾 八尾木造り物

丹波成松 愛宕祭・造り物

橿原八木 愛宕祭・造り山

詳しくは、NPO八木ネットまで。

◆関西大学住所:吹田市山手町3-3-35(阪急千里線「関大前」駅下車、徒歩約5分。)



住まい・まちづくり担い手事業2

八木の地域模型完成

1/400のスケールで札の辻境界の立体模型ができあがりました。街道と古い家、また路地の様子が手に取るように再現されています。八木の町の姿をシミュレーションしながら、今後のまちづくりに活用できたらと考えています。(八木ネット事務局に展示中)

『八木の歴史と文化』発刊

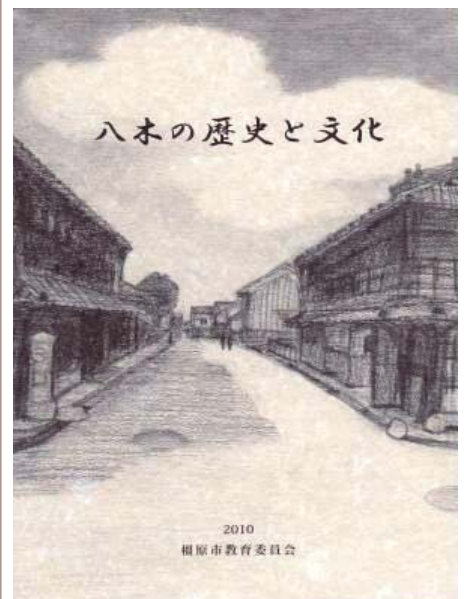
八木の歴史を語るうえで貴重な本が出版されました。橿原市の吉本教育長は、『「橿原」ここは悠久の時代より、歴史と文化に育まれた土地、先人から受け継いだ多くの文化財が遺されている。(中略)「札の辻」に立ち、旧旅籠の姿を眺め、歴史に思いを馳せるとき、より深くこの八木町の歴史を知る一助として本書をご活用いただければ幸いです。』と巻頭の挨拶を寄せておられます。

目次

- I.はじめに
- II.八木町の歴史
- III.八木町・(旧旅籠)平田家について
- IV.八木の愛宕祭りと立山

V.八木の文化財

この本についてのお問い合わせは橿原市教育委員会まで。



一般社団法人
住まい・まちづくり担い手支援機構

この新聞は、一般社団法人・まちづくり担い手支援機構の「住まい・まちづくり担い手事業」のご支援により刊行しております。

特定非営利活動法人

八木まちづくりネットワーク



奈良県橿原市北八木町2-1-5
電話・FAX: 0744(37)0804
電子メール: info@yagi-net.jp
HP: http://www.yagi-net.jp/